

編集部より Vol.12

醸される時、共に

まほろば創業 30 周年記念 「懐かしき未来」 報告

実行委員長：編集部 島田 浩



始まりは何気ない会話から

思い返せば、それはすでに昨年末から始まっていたのかもしれませんが。2013年10月に小泉武夫先生が立ち上げられたNPO法人「発酵文化推進機構」の発足式に、社長が急遽参加してからだったのではないのでしょうか。その後12月に滋賀県で開催された「発酵サミット」に北海道支部として参加。いよいよ「発酵」という言葉がキーワードになってきていました。

年が明け、恒例の慰安旅行の帰り道の車中で、社長と交わした何気ない会話から、小泉先生の講演会



寺田本家で行われた『降りてゆく生き方』5周年記念の前夜祭



発酵サミットにて。まほろばブースと小泉先生

と 528Hz の歌、そして、社長や専務に話をしてもらい、30周年記念のイベントなど開催してはどうか…との話に発展。まほろばとしては、めずらしく(?)、3月初めには会場を決め、実行委員会なるものも作って順調にスタートしました。しかしここから先、急展開する事に…。

思わぬ展開

5月の連休前後の事、映画『降りてゆく生き方』を企画制作された森田弁護士と社長が盛り上がり、ぜひまほろばのイベントで映画を上映しては、という話が持ち上がったのです。その後6月に、寺田本家さんのある神崎で開催された『降りてゆく生き方5周年記念イベント』に社長と専務が参加し、その勢いで、「祭」として北海道から全国を盛り上げるイベントにしては？と、どんどん話が大きくなってゆくことに。ここでまほろばの実行委員会は一時ストップ。森田さんと社長との間で話し合いが続く事になり、8月頭には、2日間におよぶ「まほろばまつり」として告知する事になりました。

さらに、どんでん返し？

しかし、ここで又どんでん返し。開催2ヶ月を切ったお盆前には、「ただでさえ仕事で忙しい

まほろばスタッフでは無理がある」という現実、この企画は止む無く断念する事に。そこから仕切り直しで、当初案の1日のイベントに戻し、その中に無理やり映画を押し込む形になってしまったのです。こうして、どう考えても無理のある(苦笑)スケジュールが、確定。そこからようやくチラシ作りが始まりました。

この間にも、まほろばとのつながりの中で、ぜひトークに参加して頂きたいと思うゲストの方がどんどん増えて行き、一向にチラシが完成しません。ようやくタイムリミットの9月感謝デーに合わせて、なんとか正式なチラシとチケットが出来上がりました。

暗澹たるスタート

9月セールも終わり、イベント1ヶ月前に迫った9月中旬に、ふたたび実行委員会が再スタート。チケット販売から2週間での集計は、377名収容の会場に対し100枚に満たない惨憺たる結果に。あせる一同！



知恵と努力を結集

そんな中、イベントに不慣れなわれわれに救世主が登場します。前職で多少このような事にかかわりがあったという農園スタッフの川合君が本領発揮で、細やかな計画と資料作成、準備段階での多くの事々を仕切ってくれたのです。実際、私が実行委員長に任命されたのもこの頃で(名前だけのようなものでしたが…)、かんぱん類やプログラム資料、エンディングに流す唄のVTRの製作などで「今日もホテルまほろばだよ」など言いながら会社に寝泊りして、てんてこ舞いする中を、強力にサポートしてくれました。それぞれのスタッフも、細々とした事柄を手分けして準備。農園の福田君は、会場を飾る巨大なオブジェ製作に休日返上で野山を駆けずり、店長は初めての司会に抜擢され、忙しい中も原稿草案を練る日々…。問題のパネルトークは、社長と専務、森田さんの3人で切り盛りする事になってい

ようやく完成したチラシ



農園チーフ福田君の大作も花を添えてくれた

ましたが、どうあっても足りなそうな時間配分に社長も最後まで頭を悩ませる毎日でした…。

チケット完売御礼！

こうしてみんなの努力も実ったお陰か、イベント1週間前の10月頭の時点で、チケットもほぼ完売状態に!! これも、チケット販売やチラシ配布にご協力いただいたお店様や皆様、そして何よりチケットをご購入いただいた、お客様、皆様のお陰です。この場をお借りして、あらためてお礼申し上げます。



盛り上がった小泉先生の“発酵トーク”。もっと聞きたかったとの声も。

いよいよ当日

そして迎えたイベント当日。「どんなに準備しても足りない」という川合君の言葉通り、大きなトラブルはなかったものの、徐々に遅れ遅れとなり、最終的には予定時間を



お客様で満員御礼！

大きく超えてしまいました。予想はされていたものの、実際に18:00以降に予定の入っていた皆様にはすべての行程を楽しんで頂く事ができない状況になってしまい、本当に申し訳ございませんでした。また、遠く、見難く、疲れる姿勢を強いる事になってしまった2階臨時席でご覧頂いた多くのお客様には、空いていた1階席への適切な誘導ができず、大変申し訳なかったと思っています。

それでも、400名を越える皆様にご来場いただいたこのイベントで、30年来通い続けて下さっているお客様をはじめ、多くのまほろばのお客様の方々にお目にかかり、励ましや激励のお言葉事を頂戴いたしました。皆様このような長時間のイベントにご参加くださり、本当にありがとうございました。しかし、終わった直後は、様々な反省点ばかりが心に留まり、せっかくおかけ頂いたお言葉をそのままに受け止める事すらできませんでした。

呆然の日々

そんなこんなで、イベントが終わってしばらくは疲れと反省が入り混じり、はたしてこのイベントが成功だったのか、失敗だったのかすら冷静に判断できない日々が続きました。けれども、だんだん時間が経ち、お客様の多くの方から「よかったよ」とか、「感動した」とか、「大成功だったね」とか、お声をかけていただくうちに、少し

ずつ、これで良かったのかなと思えるようになってきました。

あるお客様から、「一緒に過ごす事のできたこの時間、空間こそが、かけがえのないものだった。私が共にしてきた30年を凝縮したような気持ちになれた」というお言葉を頂きました。まほろばとして

も本当に様々な事があった30年（私は20年しか知りませんが）。付き合ってきた年数はともあれ、まほろばと見えない糸でつながる多くの皆様と、共に過ごせたあのひと時、そしてイベントが終わった今もつながるこのご縁こそが宝物の様に思えてきました。

はたして何が残せたのか

こうして、3週間が過ぎた今、いったい、このイベントで何を残す事ができたのだろうとあらためて考えてみました。参加した方、残念ながら参加できなかった方も含め、まほろばとご縁のある方々で生み出された、「何か」があるのではないかと思います。

ふと、最初に感じたのは「発酵」の事でした。会場と舞台が一体となって、ポルトホールが発酵場のゆりかごとして、巨大な杉樽のようになっているイメージが心に湧いてきました。

あした 未来に繋がる絆

この「まほろば」で生まれた絆は、人にとっても自然界の多くの仲間達にとっても、より住みよく平和な心と環境の未来（あした）を生み出す魂の友として、これからも深く繋がって行くのかもしれないと、そんな小さな希望が生まれました。

いつか、時という醸成期間を得て、私達の小さな意識の変革が、社会の大きな気付きへと発展し、本当に自分らしい人生と、そのようにあることを可能にしてくれる

● 社会、子供達や孫達へ、誇りを持って手渡す事ので
● きる美しい自然や、美しい人の心と体が醸されてい
● く事を私の希望として、今回のイベント報告を締め
● させていただきます。



即興で寺田本家の仕込み唄を披露



大いに会場を沸かせた社長の指揮と松本先生率いる528合唱団



みんなで「この道」を合唱。この道の先に、どんな未来が見えてくるでしょう…。

皆様本当にありがとうございました！

最後になりましたが、ご参加頂いたお客様の皆様、手弁当でご参集頂きましたゲストの先生方、ご協力頂きました関係者の皆様、あらためて心よりお礼申し上げます。このたびは本当にありがとうございました。そして、お疲れ様でした!!